

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第110号(2016. 5. 1)  
事務局 川西地区自主防災会

## ～ 水道施設の防災対策と水道事業の広域化について ～

香川県 水道局

### 1. 現状と課題

日本の水道普及率は97%を超え（香川県ではH26末で99.3%）、市民生活や社会経済活動に不可欠なライフラインとなっています。そのため、地震などの大規模な災害時においても、水道水が安定的に供給できるように、水道施設の安全性の確保と、さらに、被災した場合でも速やかに復旧できる体制づくりが求められています。

香川県水道局においては、吉野川の上流に建設された早明浦ダムから香川用水を經由し導水した原水を県内4カ所の浄水場で浄化した後、8市5町1簡水（五色台水道）に対し水道用水として供給しており、渇水時には、広域的な水融通に中心的な役割を果たし、また11カ所の応急給水拠点施設となる調整池を整備するなど、市町水道事業と連携しながら、安全で良質な水の安定供給に努めています。



香川県水道局が管理する水道施設配置概要図

凡例	
	香川用水幹線水路(共用区間)
	香川用水幹線水路(農業専用区間)
	浄水場
	県の導水管
	県の送水管
	県・市町共同送水管
	ポンプ場
	調整池、調整井
	給水先の市町
	市町の受水点
	市町の受水点(新規受水)
	拡張送水管路
	拡張予定送水管路

## 2. 水道施設の耐震化への対応

香川県水道局においては、創設期に建設した水道施設の多くが、老朽化して、更新時期を迎えるようになったことから、施設の更新に合わせて耐震化も図ることとし、平成22年度に「更新・耐震化計画」を策定し、耐震化率を、管路施設は平成30年度に24%、土木施設及び電気・機械設備は平成32年度に100%とする目標を設定し、計画的に更新・耐震化工事を進めております。



水管橋耐震化工事

また、施設の耐震化以外にも、南海トラフ地震などの大規模災害や異常渇水時の水道用水への影響を最小限にとどめ、水供給の安定性を向上させるため、平成21年度から「香川用水調整池（宝山湖）」（有効貯水量：300万 $\text{m}^3$ ）の供用を開始しており、平成21年や25年の渇水時には、宝山湖からの補給により断水の回避が図られ、その効果も確認されました。



宝山湖（三豊市山本町・財田町）

その他、県と丸亀市の浄水場間に緊急連絡管の整備を行い、原水を相互融通できるようにすることで、中部浄水系等の各市町の断水被害をさらに低減させることが可能となりました。

一方、ソフト面での防災対策としては、危機管理マニュアルや業務継続計画（BCP）を作成し、定期的に机上や実地の訓練を実施しているほか、応急復旧資材の計画的な備蓄や、「香川県管工事業協同組合連合会」等の関係団体と「災害時における応急対策業務の実施に関する協定」を締結するなど、緊急時の迅速な応急復旧体制の整備に努めています。

毎年1月には、阪神大震災を教訓として、浄水場において震災対策訓練を実施しており、独立行政法人水資源機構、受水市町などの関係団体や、地元自治会・小学生の参加のもと、連携と対応力の強化を図っています。



震災対策訓練（応急給水）

### 3. 県内水道事業の広域化

県民の皆さんに、将来にわたって安全で良質な水道水を安定的に供給することは、水道事業者の使命です。

ところが、県内の水道施設の多くは使用され始めてから既に40年前後が経過し、そのほとんどが今後、更新時期を迎えることから、更新費用の増大が見込まれますが、人口減少に伴い水道料金の収入の減少は避けられず、莫大な施設の更新費用や更新作業について、各市町が単独で負担することは困難となってきました。それ以外にも、施設の耐震化や、今後10年で、水道事業に従事する職員の約半数が定年退職を迎えることによる技術力継承の問題、さらには、気候変動に伴って頻発する渇水への対応など、水道事業者は、さまざまな課題を抱えています。

これらの課題を克服するためには、水道事業者が個別に対応するのではなく、県営水道事業を含む県内の水道事業の統合・広域化を図ることが極めて有効であると判断し、平成20年度から調査検討を開始し、27年4月に県及び6市8町で「香川県広域水道事業体設立準備協議会」を立ち上げ、広域水道事業体（企業団）の設立準備作業を行ってきました。

平成28年度からは、新たに坂出市と善通寺市が協議会に加わり、今後は、全国初となる「県内一水道」の実現に向けて、広域化に伴う施設の整備や、経年施設の更新事業などに関する方針づくり、企業団の組織機構など、県と関係市町が緊密に連携して平成30年4月の業務開始を目指して準備を進めていくこととしています。

# 事務局だより

平成28年 5月

今月の事務局だよりは、香川県炊出し隊の取組みをお伝えします。

## <香川県炊出し隊の取組み>

総務大臣賞祝賀会の余韻さめない中、熊本県において震度7が連続して発生、家屋の倒壊、橋の落下が多数発生、避難生活者が約9万人にのぼるなど甚大な被害が発生した。熊本の皆様へたき出しの支援を行うことをいち早く決め、食材や人員の調達と確保に努めました。4月26日（火）丸亀市川西コミュニティセンターでの出発式では、浜田知事、梶丸亀市長から激励の御挨拶をいただき、皆様に見送られ、一路熊本県へと出発（10時20分）順調に車を進め、目的地「秋津小学校」へ到着したのは午後7時50分、トイレ休ケイも取らずに走り走りでしたが9時間30分の長い道のりでした。



## 香川県炊出し隊で臨んだ今回の概要を紹介します

### 1. たき出し対象者の避難所

熊本市立秋津小学校（150名～190名）

秋津公民館の避難所（80名～140名）

2. たき出し期間 各日朝食、昼食、夕食
- 第1班 4月27日（水）～4月29日（金）
  - 第2班 4月30日（土）～5月2日（月）
  - 第3班 5月3日（火）～5月5日（木）



### 3. 参加ボランティア（敬称略）

第1班：岩崎正朔、松岡静男、滝井祝文、久保幸蔵、今井正、今川文昭、脇秀行、川北昭子

第2班：高橋義雄、岩崎シゲ子、米沢勇、大石徳壽、船越繁伸、玉井豊夫、山地巖、大林佐都美

第3班：岩崎正朔、松岡静男、滝井祝文、久保幸蔵、曾根勢津雄、岡重範、北山定男、安藤正則



#### 4. 主たる食材

米 540 kg、うどん 1,900 食、肉 90 kg  
玉ねぎ 50 kg、人参 30 kg、ごぼう 40 本  
ジャガイモ 40 kg、大根 50 本、味噌 45 kg  
太ネギ 300 本、ブナシメジ 100 パック  
カレールー 28 kg



#### 5. 参加して感じたこと

(1) ボランティア団体への対応がキチンとしていた。

(2) 宿泊場所が確保されているので安心して活動ができた。

(3) 小学校の教職員、公民館につめている市役所職員の協力度がしっかりしていた。

(4) 小学校と公民館を移動する中での地域皆さんのあいさつ、更に買出しに伺った時の市民目線とゲキレイの言葉の数々に大変嬉しく思いました。

(5) たき出し作業が小学校調理場で出来たことは、活動しやすかったし、食品の品質維持が保てた。



以上

### 編集後記

熊本・大分地震で被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心より願っております。

今月の防災減災の輪は、香川県水道局様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。

### かがわ自主ぼう会長が、 香川県新せとうち田園都市創造計画等の委員に就任

このたび香川県知事より新せとうち田園都市創造計画及びかがわ創生総合戦略推進懇談会の委員に就任要請をいただき、かがわ自主ぼう連絡協議会にとっても名誉な事であり、心よく承諾させていただきました。

尚委員は 25 名、香川県市長会会長、香川県商工会議所会頭、香川大学学長、NHK 高松放送局長そうそうたるメンバーと共に選ばれました。